



海上保安庁

令和2年6月16日

西之島の噴火について（6月15日観測）

1. 噴火の状況

6月15日午後、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属航空機により、西之島の火山活動の観測を実施し、4月、5月と比べ活発な活動を確認しました。

詳細は以下のとおりです。

【調査結果】

- ・ 噴 火 中央火口から連続した噴火が認められる。
灰褐色から黒褐色の噴煙が激しく噴出し最大高度約2,000mまで達している。
噴石の飛散は中央火口丘の麓までで収まっている。
- ・ 溶 岩 中央火口丘の北東側中腹から溶岩が西之島の東岸方向へ流下し、海へ流入しており、溶岩流の先端から白色の水蒸気が認められる。
- ・ 変色水 東岸に茶褐色の変色水が認められる。

2. 航行警報

引き続き西之島の半径1.4海里以内を警戒範囲として、付近航行船舶に注意を呼びかけています。

また、2月4日に変色水が確認された西之島の南方約5海里付近についても引き続き、付近航行船舶に注意を呼びかけています。

3. 東京工業大学理学院火山流体研究センター 野上健治教授のコメント

- ・ マグマの供給は衰えることなく継続しており、6月7日と比較して供給量が増えているとみられる。
- ・ 連続的に非爆発的噴火が発生し、大量の火山灰を放出していること及び溶岩流出口の標高が比較的高いことから、マグマヘッド（山体中のマグマの最頂部）は相当浅い（中央火口山頂のごく近傍）と考えられる。
- ・ マグマの供給が継続する限りは現在のような非爆発的噴火が続くとみられる。今後、爆発的噴火はマグマの供給が収束した頃に起こると考えられるが、噴石を遠く（海岸～海）へ飛ばすことは考えにくい。
- ・ 現在は北側への流下・陸地拡大が優勢であるが、溶岩が流れ下ることによって地形が変化するために、その後の溶岩流の流下・陸地の拡大方向は変化しやすく、予測は単純ではない。

4. その他

当庁が実施した調査結果は、随時、海上保安庁海洋情報部HPの「海域火山データベース」にて公開しています。

Web アドレス : <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/list-2.htm>

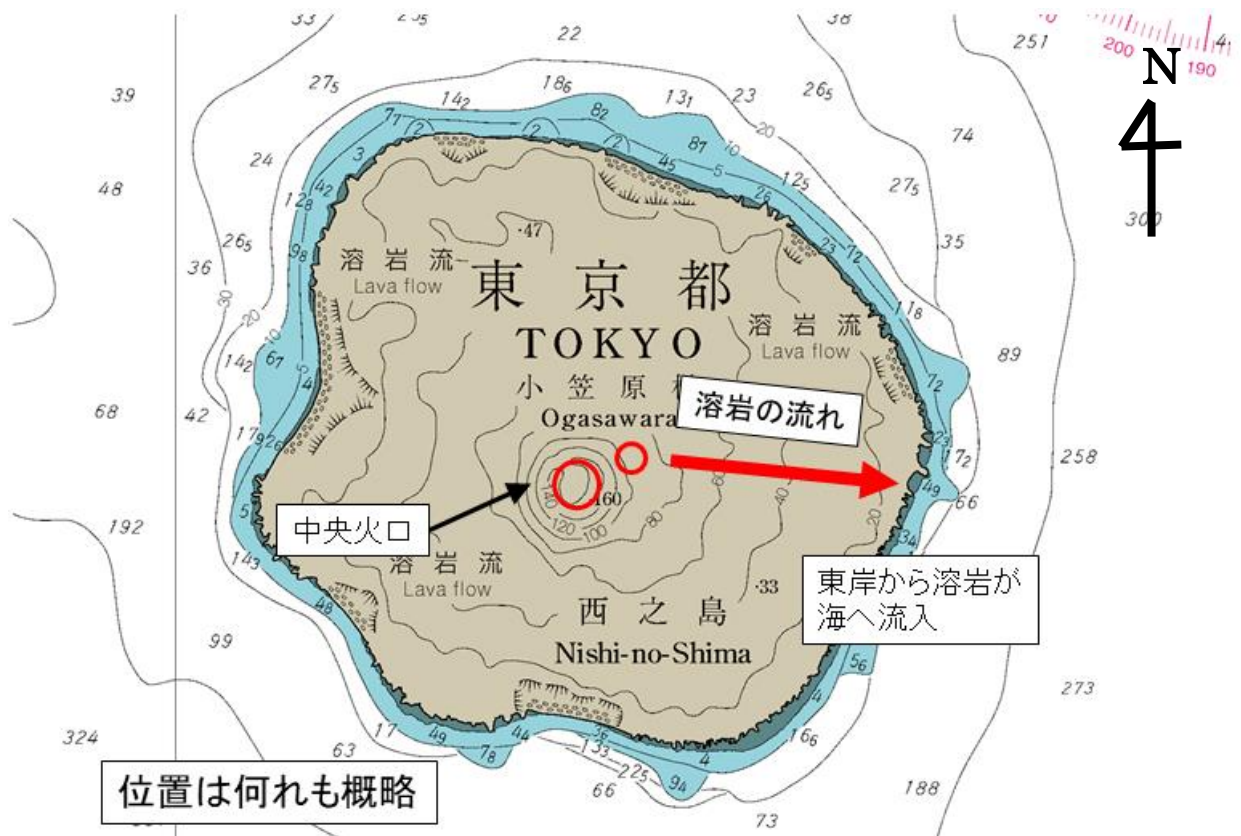


図1 調査結果の概略図（基図：海図 W1356「西之島」令和元年5月刊行）

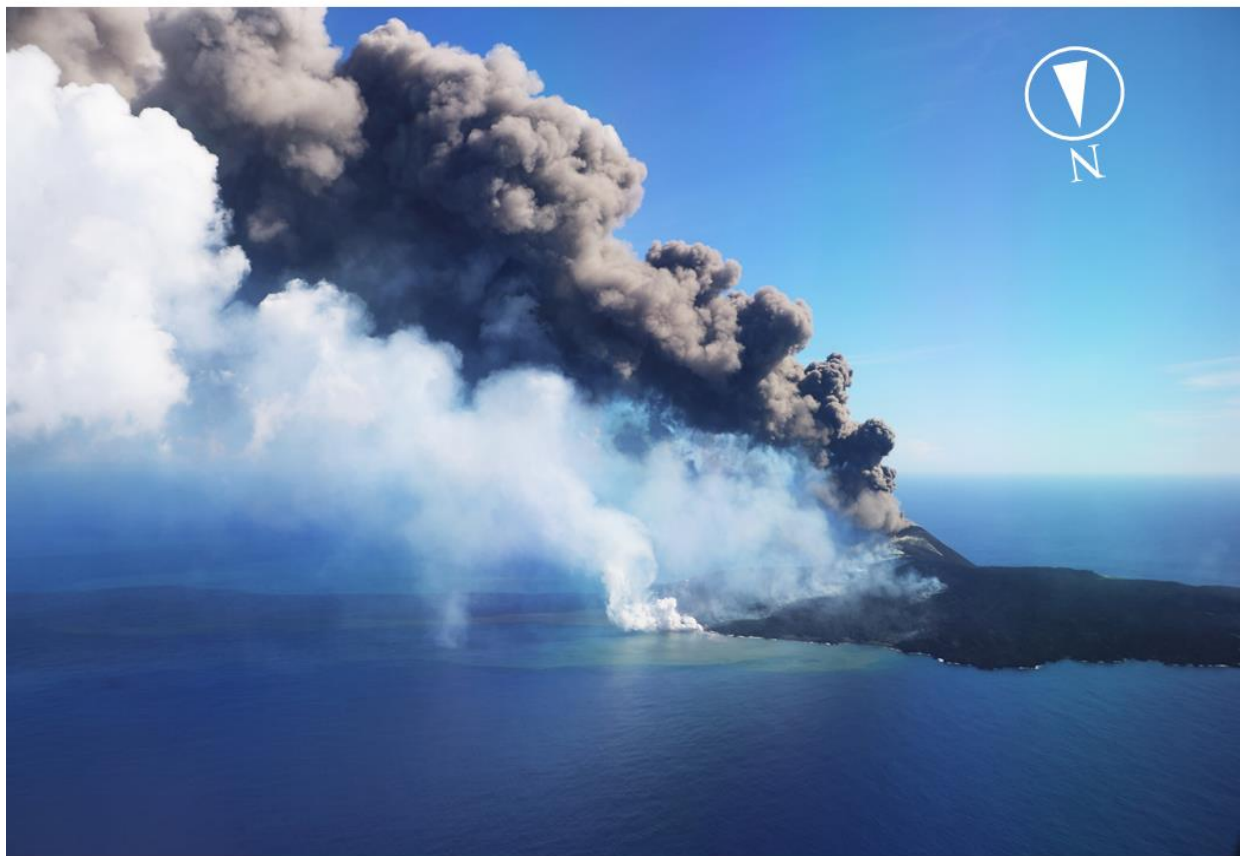


図2 西之島全景。灰褐色から黒褐色の噴煙が連続的に噴き出しており、高度約 2000m まで上がっていた。（6月15日撮影）



図3 西之島中央火口丘付近。(6月15日撮影)



図4 溶岩が東岸から海へ流入。(6月15日撮影、熱赤外線画像)



図5 4月19日から6月15日までの噴火状況の変化